

**学校法人佐保会学園
奈良佐保短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

奈良佐保短期大学の概要

設置者	学校法人 佐保会学園
理事長名	奥村 晶子
学長名	大石 正
A L O	矢和多 多姫子
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	奈良県奈良市鹿野園町806

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科	食物栄養	50
生活科学科	生活福祉	60
幼児教育科		100
	合計	210

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	30
	合計	30

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

奈良佐保短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 28 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は奈良女子高等師範学校（現：奈良女子大学）の同窓生によって設立された学園である。古都奈良のイメージにピッタリの静かな環境の中に、歴史の変遷を経て、その時々が必要に応じて増改築された校舎が点在し、短期大学としては誠に堅実な雰囲気を漂わせている。学生達も礼儀正しく、教職員との対話には信頼感が十分に読み取れ、明るさが全学に感じられる。

学生の資格取得に重点を置く教育を中心に指導されており、設備・教員ともに充実しており、その成果の評価ともいえる就職に対する支援活動もしっかりとされている。

短期大学特有の僅か 2 年間の短い期間内に授業・生活指導・就職支援活動と集中的に業務を勤めなければならない中において、当該短期大学の教員は学位取得者数、発表論文数、学会発表件数において努力の跡が顕著にみられる。

また、学生達による授業評価結果を具体的な形として反映されていく機会やファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動などの定期的実施の充実も図られ、その成果が教育活動において日々実践されていく様子も良く理解できた。

新しい時代の要請に応える短期大学づくりも、理事会のもとに四つの分科会を設け活動がなされるなど、全学的な取組みの姿勢がうかがい知れる。

学長のリーダーシップのもと、補佐役として経験豊かな教授陣の配置により、理事会との連携も適切にされており、監事、評議員も求められる役職を十分にこなしている。これらの体制により、学校法人の管理体制も確立されている。

一方、当該短期大学経営を支える大きな柱ともいえる財務的な基盤にも不安はみられない。短期大学全体としての定員充足数も充たされており、今後の発展に必要な施設の改築や設備の充実にも十分に耐えうる健全な財務体質を兼ね備えている。

最後に、今回の訪問で垣間見た教職員の態度や言葉の端々には、短期大学基準協会による第三者評価を受けたこの機会に、全学的な学校の改善運動や自己評価活動に対する積極的な意欲が感じられ、今後の教育や支援活動の飛躍的な発展を大いに期待し

たい。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学内ネットワークについて、教職員の情報の共有およびデータの一元化、学生—教員間、教職員間のデータに関する AD 化が完了している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 専任職員を十分な人数だけ配置し、きめ細かい支援体制が構築されている学生支援の充実ぶりは就職実績に表れている。

評価領域Ⅵ 研究

- 生活科学科生活福祉専攻および食物栄養専攻において教育に関連する共同研究が行われている。この共同研究は、専攻の教育および教員の研究を活性化し、紀要の充実にも寄与している。
- 各教員の研究業績、学会活動、社会活動などを当該短期大学のウェブサイト上に公開するなど、教育研究成果を社会一般に公表し、その判断を仰ぐ積極的な姿勢がみられる。
- 科学研究費補助金や民間資金などの外部資金獲得に向けて、全学的に積極的、継続的に努力が重ねられている。その成果は外部資金の申請、採択状況にあらわれている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 公開講座の中に「奈良の食文化」や「正倉院文書を読む」などがある。これらは地域に開かれ、地域に育まれてきた当該短期大学の社会貢献、成果の地域社会への還元としている。
- 学生の自発的なボランティア活動を教育の中に積極的に取入れていこうとする姿勢がみられる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育内容にも関わる大切な領域なので、理想、理念、目的および使命、建学の理想、教育理念など、使用する言葉の統一を図ることが望ましい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 授業内容や授業方法の改善へ向けた FD 研修会、SD 活動などの定期的実施が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 幼児教育学科の収容定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅵ 研究

- 個人研究費の増額など研究条件のさらなる充実に向けての努力を期待したい。
- 教員の評価については、研究と教育のバランスに配慮されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

時代や社会の変化に対応した学科の増設、改編がされてきた際に、教育目標、教育理念などの見直しを新体制で意欲的に取り組んでいる。

建学の精神・教育理念に関しては、「開設にあたっての理想」、「教育目標」、「伝統ある理念」、「目的および使命」、「建学の理想」、「教育目標の柱」、「教育理念」などの言葉が混在しており、言葉の使い方の統一を図ることが望まれる。言葉の使い方の統一後は、学生便覧やシラバスでの明示の仕方に工夫が望まれる。

各学科における教育目標に関しては明確になっているので、明示の仕方に工夫が望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

新しい資格取得を目指す教育課程の実施や模索、時代の変化に応じた教育課程の検討、放送大学互換科目の設置、地域性を考慮した基礎教養科目の設置など、教育課程の改善に積極的に取り組んでいる。

教育課程は、法令に基づき体系的に編成されており、教育目標がおおむね反映された内容となっている。専任教員の配置、授業内容とレベル、単位認定と評価などにおいてもおおむね適切である。

履修指導や学外実習においては、教員のきめ細かい指導の努力がうかがえる。

一方、評価授業内容や授業方法の改善へ向けた学生による授業評価、FD研修会、SD活動などの定期的実施が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育施設などは、経年化により多少老朽化が認められはするものの、学内の校舎および諸教育施設については、いずれも手入れが行き届き教育には支障なきものと思われ、短期大学設置基準を充たしている。ただし、校舎などの耐震審査については早急の実施し、改善の必要が認められた折には速やかな対応が望まれる。図書館は学生の利用を考慮していろいろな情報の提供がなされ学生の利便性を充たしている。また、ピアノ練習室も冷暖房設備を備え、学生の利便性を充たしている。教育の現場は常に最新の情報の提供と施設設備の更新などの環境の整備に努め学生のニーズを尊重する姿勢が望まれる。今後、さらなる、施設・設備の充実（音楽教育施設など）の充実が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

近年の学生の資質などの変化に対応した取組みが、教員により再試験の前に補習期間を別途もうけて実力の補充に努めたり、成績不足の学生に対して、個別対応を実施するなどの方法などは学生指導の今後の模範となる。これらの学校の姿勢が学生の授業の満足度に対する肯定的な回答となって表れている。また、常々教員が本指導に心がけている姿勢は教育目標の達成度を高め、教育効果の向上に大きな効果をもたらしている。課題としては、授業については単位取得状況の悪い教科目、実技科目、実習科目などに対する授業内容の検討が図られるべきである。また、資格の取得との関連がより密接に反映されるよう検討されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

施設的にもゆとりのある空間に、専任職員を十分な人数だけ配置し、きめ細かい支援体制が構築されている。

入学前支援の基礎学力の養成から入学直後の基礎学力充実教育への連動もスムーズな流れの中に実施されている。

往々にして短期大学も四年制大学も学力不足の学生支援の方向に行きがちな状況の中、成績優秀学生に対しての配慮も充分に行われているのが当該短期大学の特徴である。

学位（博士号）取得者も短期大学としては非常に多く、これらの教員の専門領域をいかしたゼミナール方式の導入でしっかり支援されている。

また、学力面のみならず、どの部署においても掲示物や配布物に丁寧な気配りが感じられる。その成果としての就職、あるいは四年制大学への編入も着実な実績の伸びが数字で現れている。

評価領域Ⅵ 研究

当該短期大学は学生の資格取得に重点をおく教育中心の短期大学であり、教員には授業、学生指導など教育中心の活動が求められている。そのような条件の中で、学位

取得者数、発表論文数、学会発表件数などから、研究活動においても最大限努力している教員の姿勢を読み取ることができる。あわせて、ウェブサイトには各教員の個人研究および共同研究の概要も公表されており、それは研究成果を社会一般に還元していかうとする短期大学全体の積極的姿勢を表すものである。また、科学研究費補助金など外部資金の積極的な導入をめざしている教員からは、予算面の制約を何とか解消して学問的水準を高めていかうとする苦心の跡を垣間見ることができる。以上のことを総合して判断すれば、研究面において一定の水準以上にある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

介護福祉士、栄養士、幼稚園教諭、保育士の養成という当該短期大学の教育目的は地域社会の中で達成しうるものであり、その成果は地域社会に還元されるべきものである。社会的活動は教育と直結する重要な課題であるとの立場から、地域社会に向けた各種公開講座、講習会、高校生向けの授業などの積極的な取組みがされている。また、社会人学生を毎年、継続的に受け入れており、そのことは一般学生の教育を活性化させている。加えて、資格取得後、地域社会の中で専門家として活動するという前提に立ち、学生に対して社会におけるボランティア活動を奨励しており、そのボランティア活動は社会から広く評価されているものである。以上のことを総合して判断すれば、社会的活動面において十分な成果をあげている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営体制については、理事長のリーダーシップが発揮され、理事会のもとに四つの分科会を設けるなど、諸課題について適切な判断ができる体制を構築している。また、監事の役割、評議員会についてもおおむね適切に運営されており、学校法人の管理運営体制が確立している。学長のリーダーシップが適切に発揮され、各部局との連携の下、短期大学の運営が行われている。教授会や各種委員会についても規程に基づいて開催され、適切に運営されている。理事会と短期大学教職員の関係、短期大学の教員と事務職員との関係は適切なものであり、人事管理などに問題はみられない。事務組織は整備され、学生からも信頼されており、SD委員会を設置するなど改善に努力されている。また、事務処理なども滞りなく処理されている。

評価領域Ⅸ 財務

理事会内に財務分科会が設置され、「中・長期の財務計画」について策定するべく議論が進行中である。事業計画、予算については適切な時期に決定し、執行されている。私立学校法の改正の趣旨に基づき、監事の役割についての検討がされている。公認会計士からの特段の指摘事項もない。また、私立学校法の規定に基づき財務情報が適切に公開されている。学校法人および短期大学の経営の状況について把握し、改善がみられ、定員充足率は妥当であり、財務体質は健全な方向に推移している。短期大学と

して必要な施設設備は整備されており、適切に管理されている。省エネおよび地球環境保全対策についても、冷暖房機器を省エネ使用に更新するなど、さまざまな取組みがされ、施設整備、環境保全について適切に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

創立者理事長のリーダー性を頼りにし、また牽引されてきた永年の体制から新体制に移行し、今回の短期大学基準協会の評価を受ける機会をいかして、組織の改革や改善に全学的に取り組む姿勢が随所にみられた。